

カビゴケ *Leptolejeunea elliptica* (Lehm. et Lindenb.) Besch.

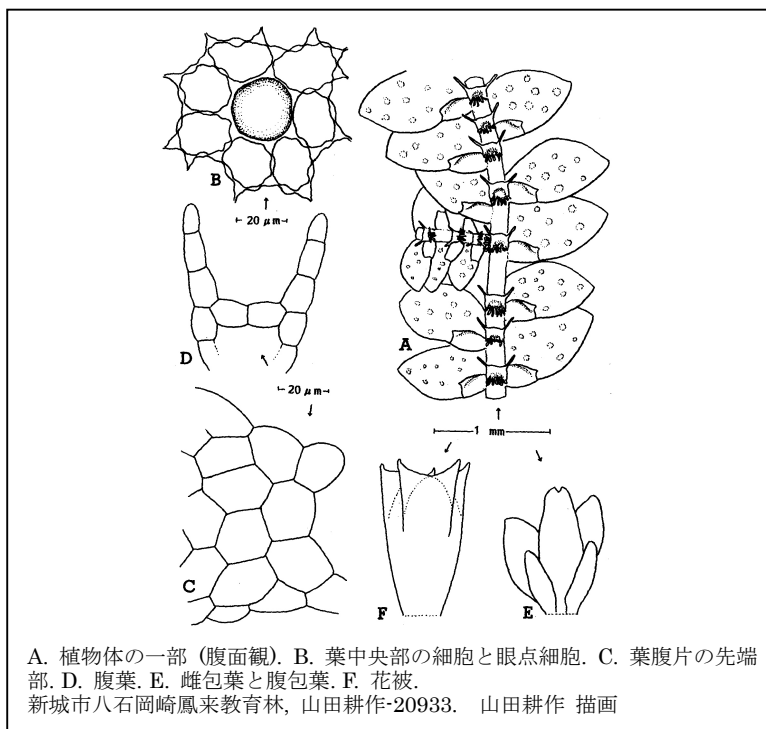
【評価理由】

谷あいや滝周辺の湿潤な生育環境が開発され、周辺一体の植生に変化がおきると、最初に空中湿度の変化に敏感に反応する一群であるため、環境の自然度を推し量る指標種となる。

個体数は少ないが、三河山間部に広く点々と分布しており、各地域の保全状況を評価すると、急に減少する恐れはないと思われる。

【形態】

植物体は長さ 3~5mm、黄緑色。葉には普通の細胞に比べて大きい異形細胞（大きい 1 個の油体が見られる）がある。腹葉は茎の腹面に離れてつき、裂片は刺状となる。花被は膨らみ、三角状の翼となった 5 個の襞がでる。雌雄同株である。



A. 植物体の一部（腹面観）. B. 葉中央部の細胞と眼点細胞. C. 葉腹片の先端部. D. 腹葉. E. 雌包葉と腹包葉. F. 花被.  
新城市八石岡崎鳳来教育林, 山田耕作・20933. 山田耕作 描画

【分布の概要】

【県内の分布】

三河の平野部、山間部に分布している。

【国内の分布】

琉球諸島を北進し、九州、四国から東北地方の福島県双葉郡木戸川溪谷（北限地）あたりまで分布している。

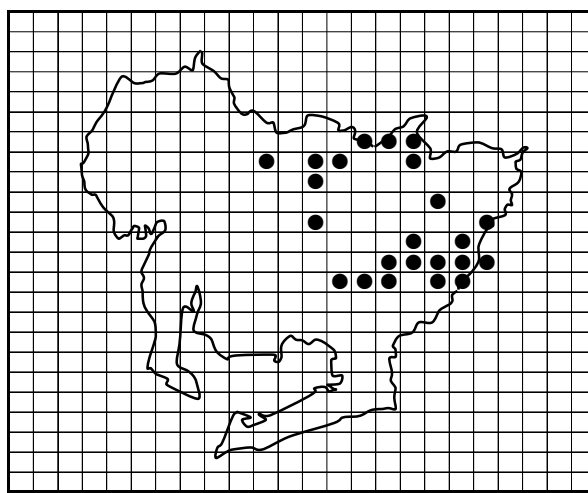
【世界の分布】

世界の亜熱帯、熱帯地域に広く分布する。アジアでは、一部が東アジアからフィリピン、中国、台湾、琉球を経て日本まで広く分布している。

【生育地の環境／生態的特性】

山間の狭い谷間を流れる渓流域の湿潤な場所や、滝に近い空中湿度の高い環境で生育している。本種は、本来常緑の低木やシダ類、ヤブミョウガなどの生葉上に着生するが、場所によっては樹幹や枝上に、稀に湿岩上に着生することもある。

県内分布図



【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少ないが、三河山間部に広く分布している。しかし、湿度の高い渓流域周辺の河川改修並びに森林伐採が生育地の環境に影響しているものと思われる。

【保全上の留意点】

谷あいを流れる渓流域の河川改修並びに周辺一体の保全に注意が必要である。

【特記事項】

植物体から芳香性のある揮発性物質を飛散する。

【関連文献】

岩月善之助(編), 2001. 日本の野生植物 コケ, 352 pp. 192 pls. 平凡社, 東京.